

平成28年11月17日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 明るい未来を創る会

代表者名 合川 哲夫

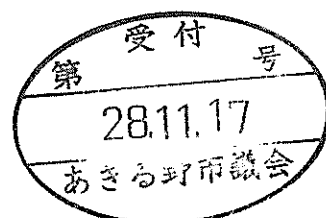


会派の（ 調査研究 ・ 研修 ） 報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	平成 28 年 10 月 6 日（ 木 ）～ 平成 28 年 10 月 7 日（ 金 ） 1泊 2日
2 調査研究または 研修の場所	1日目 福知山市立福知山市民病院 2日目 美濃加茂市
3 調査研究事項 または研修名	1日目 地域の公立病院経営と地域医療について 2日目 美濃加茂市アニュアルレポート公表について
4 参加者氏名 （ 4 名）	野村 正夫 ・ 清水 晃 ・ 中村 のりひと ・ 合川 哲夫
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり



視 察 報 告 書

視察場所 市立福知山市民病院
視察事項 地域の公立病院経営と地域医療について
視察日時 平成28年10月6日 13:00～15:00

市の概要 人口 79,695人

面積 552.57km²

病院の沿革 明治31年陸軍衛戍病院として創設

昭和20年国立福知山病院として発足

同 48年付属看護学校開設

平成 5年市立福知山市民病院として開設

平成 9年から、23年までの間、数々の指定、拠点病院として指定を受ける。

平成24年地域救命救急センターを開設

病院の概要

診療科目：内科、精神科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、形成外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、救急科

職員数：501人（うち医師64人、看護師292人、医療技術員112人、事務職員25人、教員8人）

病床数：354床（一般 340床・結核10床・感染症4床）

建物概要：鉄筋コンクリート造、免振構造、地上6階 塔屋1階

付属施設：付属看護学校、院内保育所、職員宿舎



病院玄関前にて



研修風景

病院経営のスパイラル

当該病院は、病院経営のサイクルでないスパイラルとしてとらえ、基本理念『命と健康を守り信頼される病院』の下、基本方針を

- 1、福知山地域における基幹的総合病院を目指します。
- 2、救急医療体制を充実し、いつでも安心して受けられる医療を提供します。
- 3、がん治療など高度な医療を推進します。
- 4、地域の医療・保険・福祉機関と連携を深め、地域医療の向上を目指します。
- 5、時代の変化に「対応し、患者さま本位の医療を実践します。

この五つの基本方針に1、病院施設の更新し、機能向上を図る。2、経営健全化とその持続。3、機能的、効率的病院運営、4、魅力ある病院、信頼される病院、5、地域の基幹的病院としての位置づけ、6、医療スタッフの確保、この6つ行動目的に沿って実践していった。その中身については資料ⅠのP1～7まで、と資料ⅡのP1～4までを参照。

感想

その結果当該病院の医療圏は福知山市、舞鶴市、綾部市の3市で、面積1,242km²、人口で204,157人、さらに兵庫県丹波地方からの患者もいる。

その要因は、医師の拡充と、それに見合った医療設備の充実、そして初期研修医の基本的臨床能力評価試験に積極的に挑戦し、合格する医師が何人もいる、2015年度では全国231病院中12位（1年次）、273病院中8位（2年次）の成績に、裏打ちされた患者に対する初期の診療能力と接し方の質の高さ、こうしたことにより患者数の大幅な増加など、その成果につながった。

結果、医師の数、診療科の増などにより、一日の来院患者数も上昇し、平均在院日数の短縮にも関わらず病床稼働率は90%以上で、平成26年度決算で黒字化を達成できた。

さらに、検診、人間ドックなどの予防医療の推進による早期発見と早期治療への取り組み、ERの増設で救急患者、ドクターヘリの受け入れにより患者数の増加につながっていった。

このように医療部門での取り組みのほかにも、経営側では各種委員会の設置で無駄を省くことの徹底した追及と、後発医薬品の採用（現在は80%の使用率）、診療材料費の同等安価製品の検討、委託料の見直しなど、業者変更による経費削減等々、徹底した支出の削減、

そして、①医療の品質管理、②病院が行う地域住民への周知、③苦情処理など、また職員の士気向上への対策、人材育成の職員研修等々、さらなる病院経営の質の向上に取り組む情熱がうかがえた。

このように市立福知山市民病院の経営利益に向けての改革と取り組みを、公立阿伎留医療センターも、この病院と比較検討し何が不足しているのかを検証し、地域の中核病院として利益の追求と、患者側に立った医療の役割を充分認識し、地域住民に愛される病院となつてほしいと、感じた。

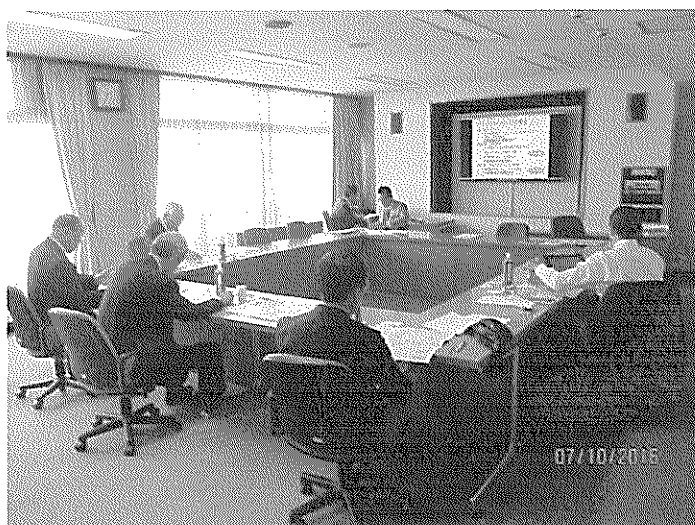
二日目

視察場所 : 愛知県美濃加茂市
視察事項 : 美濃加茂市アニュアルレポート公表について
視察日時 : 平成28年10月7日 午後1:00～3:00

市の概要 人 口 55,951人
面 積 74.81km²
広 ぼう 東西11.6km 南北13.8km
沿 革 岐阜県の中南部に位置し、木曽川沿いに中山道の宿場町として有名な太田宿を中心に栄えたところである。昭和29年・加茂郡太田町など8ヶ町村が大同団結で美濃加茂市が誕生
進出企業 ヤマザキマザックマニュファクチャリング(株)、名北工業(株)、(株)モンテール美濃加茂工場、(株)日立情映テック岐阜工場、ミツカン(株)岐阜工場など、大企業が立地するなど、岐阜県でもトップクラスの製造出荷額を誇っている。



旧中山道、宿場町の面影を残す家並



研修風景

視察研修 司会 梅村真一議会事務局長の進行

市議会議長、山田 栄氏より歓迎のご挨拶を戴き、研修に入る、説明は経営企画部財政課課長補佐森川英司氏の説明とプロジェクターの画面および資料に基づき説明を受ける。詳細については資料ⅢのP1～P18を参照されたい。

感想

幕末に、朝廷と幕府の間で、翻弄させられた、あの有名な和宮親子はこの中山道太田宿に宿泊した。一行は4万人ともいわれ通過に4日間も要したと言われている。

その太田は昭和29年周辺の町村と合併し美濃加茂市となった。

大企業の関連企業が、名古屋を中心とした経済圏に入り航空産業分野に多くの企業が、交通の利便性、アクセスのよい本市にも進出した。外国人が市の人口の7%を占めるのは進出企業の多さによるものと思われる。したがって法人市民税の27年度は10億1800万円で一般会計額の5%を占めており、自主財源も56.3%とやや減少しているものの総額の半分以上が自主財源となっている。

人口も少しずつではあるが増加しているようで、近年の地方自治体では大都市を除き人口減少に歯止めがかからない状況が圧倒的です。

本市では、まず市民に市の経営方針を示し、各事業を説明し予算を明示し、翌年には決算を、さまざまな事業の経費を前年度と金額を比較した表、主な事業の市民一人当たりの歳出額など詳細に記載した事業別行政コストの開示で、市民に報告する。

難しい財政用語の説明も的確な箇所で説明が記載されて、分かりやすく説明をしている。市民の反応も良好でお叱りを受けたり、また励まされたり、まさにアニュアルレポートによるわかりやすい財政情報の開示となっている。

議会においてもこのレポートにより活発な議論が生まれ、市民も市財政に関する関心が高まり、市民一人一人が市の経営にかかわっているのだ、と言うこと、まさにそのことの理解度が次第に深まってきているように思われた。

あきる野市でもこのアニュアルレポートを活用してみてはいかがか。

報告者 合川